

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-530	13-304	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Liver cirrhosis but not alcohol abuse is associated with impaired outcome in trauma patients - a retrospective, multicentre study. アルコール中毒ではなく肝硬変が外傷患者の障害と関係している。— 後ろ向き多施設治験 —		
<b>執筆者</b>		
Nau C, Wutzler S, Dörr H, Lehnert M, Lefering R, Laurer H, Wyen H, Marzi I; Trauma Registry of DGU.		
<b>掲載誌</b>		
Injury. 2013 May;44(5):661-6.		
<b>キーワード</b>		
アルコール依存症、外傷、肝硬変、		
<b>要 旨</b>		
<p>序論</p> <p>肝硬変は、待機手術を受けた患者での障害と関係していることが示されている。そこで、我々は多発性外傷患者でアルコール中毒と以降の肝硬変が及ぼす影響を調査した。</p>		
<p>材料と方法</p> <p>ドイツ外傷外科学会の外傷レジストリのために多施設集団ベース研究を用いて、我々はアルコール中毒と肝硬変がある外傷患者と他の健康な外傷患者（外傷重症度スコア ISS <math>\geq 9</math>、<math>\geq 18</math>）を、後ろ向きに単変量解析およびマッチドペア解析で比較した。スチューデント t 検定と分散分析（分散分析）を使用して平均値を比較した。<math>\chi^2</math> (<math>p &lt; 0.05</math>) を有意差とした。</p>		
<p>結果</p> <p>全体として 13,527 例の患者は包含基準を満たし分析された。713 例の (5.3%) 患者はアルコール中毒を呈し、そして、91 例 (0.7%) は肝硬変を患っていたことが記録されていた。アルコールにより肝硬変を患っている患者は、損傷パターン、年齢と外傷の治療後の結果に関して、対照と異なっていた。より詳しく述べると、肝硬変患者は、予測されるより有意に高い院内死亡率を示し (35%対 19%)、一臓器または多臓器不全の率が上高かった。アルコール中毒が臓器不全率も上昇させるが、それは院内死亡率には影響を及ぼさなかった。</p>		
<p>結論：</p> <p>肝硬変を患っている患者は、多発外傷の後遺症をもつ結果を提示した。個々の死亡率リスクプロファイルを評価するために、肝硬変のように既存にある身体状態を外傷スコアに配慮しなければならない。</p>		